

〈研究成果の紹介〉

チトニアはケナガカブリダニのバンカー植物に適している

農業研究部茶業研究室

1. 成果の内容

環境負荷軽減や食の安全・安心に配慮した総合防除体系の中で、天敵の利用は重要な役割を果たしています。茶栽培においては製剤化された天敵がないため、改正農薬取締法の下では使用場所の周辺で採取された天敵の使用が認められているのみであり、総合防除体系の確立のためには土着天敵の保護利用が不可欠です。土着天敵の保護利用技術としては、天敵を増殖・温存できるバンカー植物の利用(バンカー法)があります(図1)。

そこで、チャの重要害虫であるカンザワハダニに対するバンカー法を確立するために、土着天敵のケナガカブリダニを効率的に増殖でき、バンカー植物に適している植物を検討しました。

ケナガカブリダニを増やすためには餌が必要ですが、この餌(代替餌)にはチャを加害しないナミハダニを利用します。まず、ナミハダニの発育が優れている植物を5種類を選抜しまし

た。それらの植物を茶園に植栽し、ナミハダニを放飼した後のケナガカブリダニの誘引効果、さらにケナガカブリダニの増殖程度を調査したところ、ケナガカブリダニを効率的に増殖できバンカー植物に最も適しているのはキク科1年草のチトニア(*Tithonia rotundifolia*)でした(表1、図2)。チトニアにナミハダニを放飼してから、約30日でケナガカブリダニの密度が最大に達することも明らかになりました(図3)。

2. 技術の適用効果と適用範囲

バンカー植物上で増殖したケナガカブリダニによるカンザワハダニの密度抑制効果、バンカー植物の効率的利用法については、現在検討しています。

3. 普及・利用上の問題点

チトニアの生育状況、ケナガカブリダニ増殖程度は気象条件等により変動する場合があります。(富所康広)

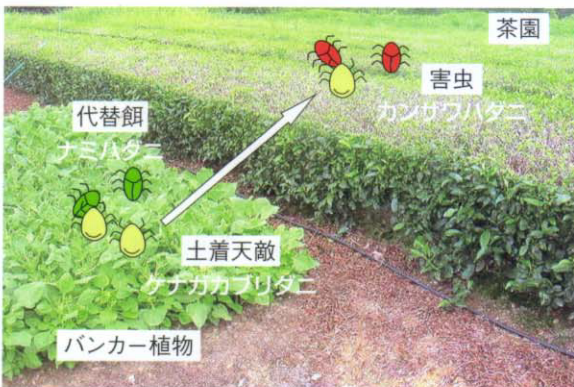


図1 バンカー法のイメージ



図2 チトニアの育成状況

表1 供試植物におけるナミハダニとケナガカブリダニの最大密度

	ナミハダニ 放飼日	ナミハダニ (成虫/葉)	ケナガカブリダニ (全発育態/葉)
チトニア	6月20日	0.68	0.66
ヘリオプシス	5月31日	1.78	0.08
メランボジウム	6月20日	0.30	0.06
ダリア	5月31日	0.38	0.02
フィソステギア	7月1日	0.16	0.02

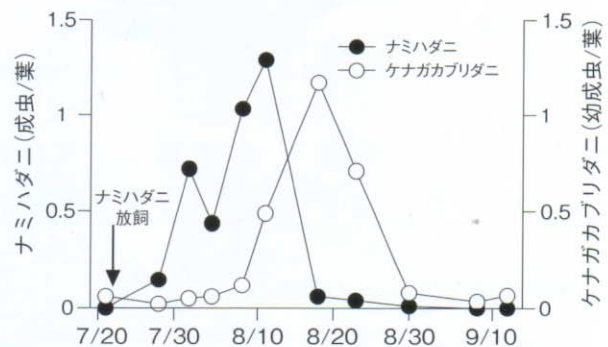


図3 チトニアにおけるナミハダニとケナガカブリダニの増殖状況